

審 議 経 過

No. 1

1. 開会

2. 辞令書交付

委員を代表し、古川委員へ梶原教育部長から辞令書を交付

3. 委員紹介

事務局から各委員を紹介し、それぞれ自己紹介

4. 会長・副会長選出

会長に羽柴良重委員、副会長に柳澤美佐子委員を選出した

5. 議題

(1) 令和5年度 事業報告について

(2) 令和6年度運営方針及び事業計画について

(3) 開館30周年に向けた取り組みについて

(4) 図書館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて

●事務局から説明後、質疑応答

【カーボンニュートラルライブラリーについて】

(委員) (人と本と環境に優しい図書館づくり) ワークショップに参加したが、市民図書館の設計者の寺田さんに、意見を聞いたりしているか。

(館長) 個人レベルで具体的に相談をして、アドバイスを伺いたいと考えている。

(委員) 設計者は、市民図書館の29年の現状を把握し想いを寄せてくれている。力を貸してくれるので遠慮せずにやり取りをするとよいと思う。

(館長) 図書館の歴史を振り返ると、いろいろな想いを込めて作られてきている。その想いを理解したうえで、改善すべきところは改善し、残すべきところは残すといった選択が難しく、重要である。このあたりについても協議会でもご意見をいただきたい。

【コミュニティセンター支援について】

(委員) コミュニティセンターに50冊の絵本を置く件だが、コミュニティセンター側、地域の方の協力が仰げないか。例えば椅子をおいたり、本棚を置いたりなど、地域のコミュニティを利用できないか。連携をし、波及することで効果が上がるのでは？地域の子ども会でも話題にあがった。

(館長) おっしゃるとおり。本を届けるだけではなく、実際コミュニティセンターで、どのように有効活用するのが重要。センター長会議にて事業の説明と協力を要請した。地区ごとに取り組んでいただくことを大きく期待している。

(委員) 黒川町でも人が動かないと、物も活用されないことを実感した。今は読書活動が浸透していると思う。意識が少しずつ高くなってきたので、声掛け次第でうまくいくのではないか。それぞれの町で、核になる人に届いているかどうか。

(委員) 50冊の本は貸出されるのか、それともコミュニティセンター内でのみ利用するのか

(副館長) まだ方法は検討中。50冊を15セット準備し、コミュニティセンターを巡回させる。運用はコミュニティセンターに考えていただく。これは黒川の取り組みをヒントに、いろいろなところに絵本を置き、読んでいただく機会を作る。

(委員) そもそも、土日は閉館しているのでは？

(委員) 黒川町は、(コミュニティセンター内図書室を) 日曜日の午後1時から3時まで地元のボランティアが開館している。

(副館長) 令和2年度からぶっくんのコミュニティセンターへの巡回を開始している。職員と司書が、相談しながらまちづくりに生かせる取り組みになげられたらと考えている。

【「図書館の設置及び望ましい基準」の見直しについて】

(館長) 先ほど諮問という形でお願いしたが、実際に中心になる委員として、才津原委員にお願いしたい。

(委員) 私でもよろしければ了承する。他にもメンバーが必要である。

(館長) 事務局から、委員に個別にお願いをさせていただく。

7. 意見交換

(委員) 私の学校は小規模な学校のため、図書室も蔵書も大きくはないが、ぶっくんが巡回しているおかげで、子どもたちも楽しみにしている。また、地元のボランティアが読み聞かせにきている。また、多読の子がいて、よくやったねと声をかけた。

(委員) 私の学校は、義務教育学校だ。先日、小学校と中学校での図書室の在り方について考えさせられることがあった。生徒が授業に遅れるなどの不適切な使用が他校であったことから、午前中は図書室を閉めたほうがいいという議論があった。その中で私が申し上げたのは、午前中に図書室に鍵を閉めて生徒が入れない空間にする必要はない、むしろ図書室の使い方を指導するのが仕事だという結論になった。今では、朝から夕方まで開いている。図書室を見直す良いきっかけになった。

(委員) 図書館のホールは、子ども会の「話し方大会」の会場として使っている。役員の中には、図書館のホールに初めて入るという方もいた。また、子どもたちの待ち時間の解消にもつながり、発表の順番が来るまでは心穏やかな時間を過ごせるのではないか。図書館のPRに少しはつながっていると思っている。

(委員) 大坪小学校の特別支援学校に読み聞かせに行き、先生と子どもたちがとてもよい雰囲気楽しんでくれた。この活動が楽しみだ。

(委員) 今、図書館が問われていると感じている。なぜ図書館があるのか、なぜ必要なのか。市民と協働で立ち上がったことを受け継がなければならない。図書館のこれから10年、20年をどうしていくのかを語り合う場が必要だ。文化を支える施設として大事に発展させていくために、そういった語り合う場が協議会以外にもあるといいのではないか。

(委員) 基準の改定について、コミュニティセンター、学校などを、どう活用するのか、していけるか、見直しの中で一つの柱になると感じている。

(委員) カーボンニュートラルと庭園改修は同時進行なのか。

(館長) 脱炭素化に向けた動きの中身として、今年度は庭園の改修設計業務と再生エネルギーの教育・学習の教材としての設備工事ということで動いている。

7. その他

(1) 次回の協議会

- 事務局から、第2回目の協議会の日程を説明

8. 閉会

